

令和2年 夏 代替大会開催



地元B & Gから激励！

ソフトテニス部 バレーボール部 野球部

●ソフトテニス部（岡崎菜緒）
 私たちは、県大会出場に向けて日々練習に励んでいました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け大会が中止になり、先が見えない不安と進路のことでテニスをやる気力を失いかけていました。私たち3年生4人で代替大会に出場するか否かを話し合い、「せっかくここまで頑張ってきたのだから4人で最後までやり切りたい」と考えました。最後まで全力で頑張ります。

キャプテン抱負

芸北教育

広島県立加計高等学校
 芸北分校

307号
 令和2年
 ~8月~

全国から入学できます！
 女子下宿、男子寮完備。町より月一万円
 の補助制度あり。見学随時可能。
 （電話）〇八二六・三五・〇七二六

おかげ様で力を出し切ることができました。



後輩や保護者、先生方が作ってくれた「芸分魂」千羽鶴を掲げて頑張りました。ありがとうございました。





●バレーボール部（榮田つぐみ）
 私たちは、今回の新型コロナウイルス感染症の影響で、「今までバレーボールが当たり前にできていた環境が当たり前ではない」ということに気づかされました。県大会での1勝を目指し、応援してくださる方、大会を運営してくださる方に感謝して芸分らしい躍動したバレーをします。



●硬式野球部（山田潤也）

まずは、この状況下の中で代替大会が開催されることに感謝します。例年とは違うスタンドの光景となりませんが「芸分野球」を貫きます。日頃、お世話になっている地域の皆様方に少しでも元気を与えられるように勝利と自分たちの全力プレーを届けられるように頑張ります。

激励文

野球に携わる人は誰もが憧れる夢の舞台「甲子園」は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。全国の高校生、保護者、地域の方々、応援してください。全てのの方々にとって大きなショックだったのではないかと思います。それでも前を向き、2か月ぶりに顔を合わせた仲間とともに日々の練習に励む部員の姿は、私たち芸分生、地域の方々にも元気を与えてくれます。

先輩と流した悔し涙から1年、選手たちは1勝を掴み取るため、厳しい練習に励んできました。喜び中でも、「芸分魂」を胸に、声を出し、励ましあう姿を見てきた私は、その集大成となるこの大会でのみんなの躍進を心から祈っています。芸分野球を教えてくださいました先輩方、指導者の方々、保護者、応援してくださる地域の方々、そしてこの大会を開催するにあたってご尽力いただいた関係者の方々に感謝し、最後のワンプレーまで全力でプレーします。私たち芸分生のモットーである「芸分魂、やっつけやれないことはない」を胸に、コロナで不安な毎日に少しでも笑顔と元気を届けたいです。

硬式野球部マネージャー 3年

上前 梨香（カンマエリカ）

芸北分校では野球部、バレーボール部、ソフトテニス部がそれぞれの3年生



我ら芸北一家

最後の代替大会に出場しました。これで「しっかりと終わり切る」区切りの大会となったでしょうか。共通して言えることは「関係するすべての大人が現状の環境のもと生徒のために精一杯の舞台を用意してくださった」ということです。何しろ前例のない、先の見えない日常であったため、通常のルールや条件も違います。願うことは3年生一人ひとりが自分なりに区切りをつけ、次なる目標に向けて邁進してもらいたいということですね。感謝の思いを胸に更なる一步を踏み出してください。



みなこ館の近くに住んでいる小学生が「ジャガイモ」をプレゼントしてくれました。これは、コロナ感染症の影響で小学校が休業しているときに、いつも優しく接してくれる芸分生に「お礼」がしたくて、近くの土地を利用して自分で栽培したそうです。

● 地域交流

「みなこ館」へ
プレゼント

●全校朝礼

ソフトテニス部

殻破り



ソフト
テニス部
1年生8
名が**殻破**
りに挑戦
しました。
歌・ダン
ス・掛け
声・・・演技の途中でまさ
かのソフトテニス部顧問
M先生の「**合いの手**」が入
り、ほんの少し「**啐啄同時**」
の瞬間を垣間見ることが
できました。これから芸北
の大地で一歩ずつ成長し
てください。

1学期 終業式

8月7日（金）に終業式
を行いました。約2週間ほ
ど遅れた今年の夏季休業
は8月23日（日）までの16



日間と
なりま
した。
これ
までの
日常と
異なる
日々に
戸惑い
ながら
も1学期
を生徒・教
職員全員
で走り抜
けまし
た。今後
も与えら
れた環境
のもと**芸分**
だからこ
そでき
る取組を
進めます。

「やるしかない」

大相撲、東前頭17枚目、照ノ富士が7月場所において史上最大といわれる復活優勝を果たした。モンゴル出身で18歳の時に鳥取城北高校に相撲留学。現在28歳である。5年前に関脇として一度優勝の経験がある。その後、横綱の一步手前の大関まで昇進したが大きな病気ゆけがによって稽古もできず幕内、十両、幕下、三段目、序二段まで番付を下げた。「親方」50回くらい『辞めさせてください』と伝えたが、親方は、まずは病気、けがを治すこと、進退はそれからだとアドバイスした。また、周囲の励ましが力になった」と述べている。「**続けて**きてよかった。様々なことがあったがこうやって笑える日が来ると**信じて**いた。一生懸命やっていたらいいことがある。**落ちて**いる**ときも応援してくれる方々**が支えてくれた。**恩返し**です……」

まさに、「継続は力なり」であり、現役を続けていたからこそ恩返しである。

プロ野球、故野村克也氏の有名な言葉で「**信は万物の基を成す**」という言葉がある。信頼、信用、自信など「信」がなければ人間は動けないし、何事も始まらないということである。今、全世界は明るい未来を信じて「**やるしかない**」

太公望球児